

令和3年度（2021年度）第10回公立大学法人熊本県立大学教育研究会議 議事録

日 時：令和3年（2021年）12月13日（月）10時00分～11時40分

場 所：熊本県立大学 CPDホール

出 席：学長	半藤 英明
副学長	堤 裕昭
事務局長	平井 宏英
文学部長	鈴木 元（リモート参加）
環境共生学部長	石橋 康弘（リモート参加）
総合管理学部長	澤田 道夫（リモート参加）
文学研究科長	虹林 慶（リモート参加）
地域連携政策センター長	丸山 泰（リモート参加）
学術情報メディアセンター長	北原 昭男（リモート参加）
国際教育交流センター長	レイヴィン・リチャード（リモート参加）
学校法人 九州ルーテル学院長	内村 公春
株式会社 熊本日日新聞社 調査役	松下 純一郎
熊本県公立高等学校長会長	牛田 卓也

監 事：公認会計士・税理士	河喜多 保典
弁護士	本田 悟士

事務局：川元事務局次長、丸山総務課長、三隅教務入試課長、佐藤教務入試課入試班長、尾方教務入試課教務班長

1 開会

2 学長挨拶

3 議事

(1) 審議事項

① 令和4年度（2022年度）特別選抜における合格者決定について

事務局教務入試課から、資料1-1に基づき、「特別選抜として学校推薦型選抜ほかの試験を実施し、各学部の教授会で合否の判定を行ったので、御審議をお願いする。試験は12月5日に実施し、学校推薦型選抜には、73名の募集に対して143名の志願者があった。農業・林業・水産科学校推薦型選抜には、若干名の募集に対して2名の志願者があった。くまもと夢実現学校推薦型選抜には2名以内の募集に対し、また社会人選抜、帰国子女選抜には、若干名の募集に対して志願者がなかった。合格発表は本日午後1時30分を予定している。」との説明があった。

1) 学校推薦型選抜

文学部長から、「日本語日本文学科は、募集人員5名に対し、志願者7名。小

論文と面接を実施。上位5名を合格としたい。英語英米文学科は、募集人員7名に対し、志願者13名。小論文と面接を実施。上位7名を合格としたい。」との説明があった。

環境共生学部長から、「環境資源学専攻は、募集人員3名に対し、志願者8名。小論文と面接を実施。上位3名を合格としたい。居住環境学専攻は、募集人員4名に対し、志願者10名。小論文と面接を実施。上位4名を合格としたい。食健康環境学専攻は、募集人員4名に対し、志願者21名。小論文と面接を実施。上位5名を合格としたい。なお、4位と5位は同点。」との説明があった。

総合管理学部長から、「総合管理学科は、募集人員50名に対し、志願者84名。総合問題と面接を実施。上位50名を合格としたい。」との説明があった。

2) 農業・林業・水産科学校推薦型選抜

環境共生学部長から「募集人員若干名に対し、志願者2名。試験の結果、2名とも素晴らしい方で2名とも合格にしたい声もあったが、1名を合格としたい。」との説明があった。

審議の結果、案のとおり承認した。

② 副学長の選考について

学長から資料2に基づき「堤副学長に任期満了に伴う次期副学長の選考についてお願いするもの。」との説明があった。

鈴木文学部長は離席（リモート会議を離れま）した。

審議の結果、案のとおり承認した。

鈴木文学部長が席に戻り、審議再開した。

③ 学術情報メディアセンター及び地域連携政策センターにおける組織改正及び規程の整備について

事務局次長から資料3に基づき「現在、情報、地域（産学）連携、研究支援の各部門を早急に強化する必要と学術情報メディアセンターが担っている分野が広いことから、4月1日付けで組織改正を行う。具体的には、図書館を独立させ、デジタルイノベーション推進センターを新規に設置し、従前の地域連携政策センターに研究部門を一元化させ、地域・研究連携センターへ名称変更を行うもの。」と説明

があった。

審議の結果、案のとおり承認した。

④ 教員採用に係る枠取りについて

1) 英語学・言語学・対照言語学

文学部長から資料4-1に基づき「文学部において、英語学・言語学・対照言語学について前任者転出により枠取りを行う。前任者は純粋な英語学だったが、今後本学での留学生の受入れ等を考慮し、日本語・日本事情について教育できる人材を求める。職位は広く教授、准教授又は助教とする。」と説明があった。

2) 森林資源学

環境共生学部長から資料4-2に基づき「環境共生学部において退職者補充のため、枠取りを行う。従前は森林生態学だったが、熊本県の森林資源に対する教育・研究・地域貢献についての要望が高いため、今回、領域を広げ森林資源学で募集する。そのほか森林生態学、森林環境アセスメント実習は教職免許に関わるなど、資源専攻でも重要な科目であり、教育・研究の中心的な役割を引き続き担当してもらうため、職位は准教授とする。」と説明があった。

3) 産業組織論

総合管理学部長から資料4-3に基づき、「昨年度、総合管理学部において枠取りを行ったが、応募がなかったため職位を准教授・助教に変更し、共通教育センターのデータサイエンス演習も担当いただくので、科目を追加して再度枠取りを行うもの。」と説明があった。

4) データサイエンス

共通教育センター長から資料4-4に基づき、「全学共通教育において令和5年度に開講するデータサイエンスの演習を担当する教授、准教授の枠取りを行うもの。新規開講分野となる。これにより、現在、採用が協議されるデータサイエンス入門を担当する教員の2名体制となり、採用後は一部データサイエンス入門の担当も予定。」と説明があった。

5) 地域研究ならびに地域社会学（もやいすと）

同じく共通教育センター長から資料4-5に基づき、「全学共通教育において、本学の人材養成の一環としてもやいすと育成システムを構築しており、もやいすとジュニア育成及びもやいすとシニア育成を担当する教員として教授、准教授の枠取りを行う。新規分野となり、専門は地域研究ならびに地域社会学。」と説明があった。

6) 英語教育

同じく共通教育センター長から資料4-6に基づき、「全学共通教育において、退職者補充のため、英語教育について、教授、准教授の職位の方の枠取りを行うもの。採用予定者は総合管理学部の英語オーラルコミュニケーション関連科目を担当するほか、IntensiveEnglish（英語合宿）や MoyaistGlobalTraining などの全学教育の英語科目の中心的役割を担う。また、県や市からの英語教育に関する専門的意見や助言を求められる地域貢献や海外の教育機関との連携や協働のプロジェクトにおける幅広い経験と国際感覚が求められる。」と説明があった。

審議の結果、案のとおり承認した。

4 その他

次回日程 令和3年度（2021年度）第11回 12月20日（月）
午後2時40分～ CPDホール

5 閉会